



チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ第60回定期演奏会

チルコロ・マンドリニスティコ・フローラ第60回定期演奏会を聴いて

東北支部事務局 佐々木敬二

10月13日(月・祝)、前日の祝賀会に続いてチルコロ・マンドリニスティコ・フローラ(高橋五郎氏主宰)の第60回定期演奏会が、日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)で開催され、大勢の来場者が心ゆくまで演奏を楽しみました。

第1部「田中常彦トリビュート」は、高橋氏の恩師である田中常彦氏(連盟初代会長)への敬意と感謝を込めた選曲となっていました。独奏の部は、田中氏がイタリア留学時代に師事し演奏活動を共にしたR.カラーチェの「小さなガボット」で始まりました。続く田中氏作曲の「ナポリの思い出—無言歌」は、遠くナポリの情景が浮かぶ歌心たっぷりの演奏でした。田中氏に本格的なイタリア奏法を伝授したA.サルコリの「月に向かいて」は、メランコリックな旋律を浮き立たせる好演で、窓辺に寄って月を愛でる人に歌いかけている情景が目に見えようでした。合奏の



部では、R.カラーチェの「ナポリの思い出」(田中常彦編曲)、「間奏曲」、田中氏が作曲法を学んだG.ナポリの「断片」(高橋五郎編曲)、「アンジェラスの鐘」(田中常彦編曲)と演奏され、田中氏作曲の「行進曲『祭りの日』」、「哀愁」、「囀る小鳥」、「幻想曲『箱根八里』」が4曲続けて演奏されました。特に、「幻想曲『箱根八里』」はチルコロ・フローラ第1回定期演奏会のために田中氏が贈った記念すべき作品です。「箱根八里」の旋律をモチーフとして、険しい峠道を行く旅人たちが朗々と唄う姿を描いた印象的な1曲です。第1部は、田中常彦氏のマンドリン人生を音楽で辿るという、チルコロ・フローラにしかできない濃密なプログラムでした。第2部「イタリアとの絆」は、ソナーレ・マンドリーノ(仙台市)の皆さんも加わり、歌も交えたカンツォーネとアリアで始まりました。E.A.マリオの「ナポリは唄う」(高橋五郎編曲)は、どちらもナポリらしい素敵な曲でした。続いてソプラノの三野宮まさみ氏が登場し、E.A.マリオの「5月

よ はい あなた！」(高橋五郎編曲)、E.D.カプアの「オー ソーレ ミオ！」(高橋五郎編曲)という2曲のカンツォーネを披露し、私たちも体を揺らしながら楽しみました。さらにG.プッチーニの歌劇「ジャンニ・スキッキ」よりアリア「私の優しいお父さん」(内藤淳一編曲)を表情たっぷりに歌い上げ、想像を超えた響きに客席は感動でいっぱいになりました。

第2部後半は、アンサンブル フィオーレ ディ オオサカ(大阪市)とプレットロ・ロマンンティコ(名古屋市の)の皆さんが加わり、壮観なステージとなりました。S.スカルツィーナの「C.P. Oラプソディ」は5曲から成る組曲で、特殊奏法や変拍子を駆使して、夜の街のけだるさと喧噪、安らかな眠りへと誘う懐かしい旋律、そして華やかなサンパの踊りが、都会的センスたっぷりに表現されていました。なお本曲は第40回定期演奏会で演奏(本邦初演)されています。演奏会の掉尾を飾ったのは、I.クロッタの「ナポリの風景」(N.カターニア編曲)です。「サンタルチアの祭」「ボジリポ地方の唄」「入り江を照らす満月」「祭日の悪戯っ子」の4曲から成る、古き良きナポリの風景を描いた大作です。土の香りがする民衆の踊り、ギターのアルペジオに乗って優しい歌声が流れる港町の夜、町の広場では老若男女が笛太鼓に合わせてタランテラを踊り祭りはクライマックスへ…。指揮者がタクトを下ろすやいなや、壮大かつ繊細な演奏に酔いしれた客席から万雷の拍手が沸き起こりました。



アンコールは、再び三野宮まさみ氏が登場しG.ヴェルディの「乾杯の歌」を熱唱しました。最後は恒例の「カント・シレーナ」で締めくくり、感激と喜びのうちに60回定期演奏会は幕を閉じました。

今回は、主宰の高橋氏と部員の皆さんが“60年の集大成”と位置づけて取り組んできた特別なステージでした。めったに出会えない素晴らしい音楽体験をプレゼントしてくださったチルコロ・マンドリニスティコ・フローラに心から感謝の拍手を送りたいと思います

